

蔵のあるまちなみ

住吉蔵部／阪田晴宏

はじめに

景観、あるいはまちなみ景観とは何か。

景観とは目に見えるものすべてをいう。われわれはすでに環境の中にいるので、良いものもあまり目にしたくないものも含めすべてが目に入る。その中で、良くないものを除き、または改善・修復し、良いものは守り・育てよう努めねばならない。今回、住吉のまちなみ景観の内、良いもののひとつとして蔵に着目して調査等の活動をしている。蔵というまちなみのひとつの要素を残そうというのではなく、われわれの目に入る、蔵のあるまちなみ景観を守り、次世代に残せるよう願っている。

記憶の継承

「神戸の壁」を覚えているだろうか。

1995年1月の阪神淡路大震災による大火で焼け残った防火壁である。この災厄を失った命とともに記憶にとどめるためにモニュメントとして残されている（現在は淡路市内にある）。また記憶に新しいものに2011年3月の東日本大震災の津波に耐えた陸前高田市の「奇跡の一本松」がある。これも関係者が後世に残そうと努力した（残念ながら海水の影響で再生が不可能と判断された）。これらが意味するものは何か。

それはモノがつなぐ歴史である。モノによって、それにまつわる出来事に思いを馳せることが可能となる。災厄ばかりでなく良いことの記憶や歴史的事実にモノを通してつながることができる。まちに目をやれば、日常何気なく目にする建物群、風景もそういう役目を果たすのである。たとえば、子どもの頃

から見ている蔵のある景観が今も残っているならば、そのまちなみを見ることで幼い頃の記憶に一瞬で戻ることができるはずだ。

住吉のアイデンティティと固有のまちなみ

先人たちが築いた住吉のまちに今も残る蔵のあるまちなみが、そこに思いを馳せる契機としてのモノになりうるのである。住吉の歴史を少し知ることで、蔵のあるまちなみと先人たちの紡いだ歴史がつながり、区民としてのひとつのアイデンティティを得ることができるのではないだろうか。

住吉のまちなみ景観をみると、蔵だけでなく町家、町家長屋、屋敷型住宅、近代長屋、文化住宅、そして最近のマンションなど、多様な住まいの形態が見られる。その多様性そのものが住吉の固有性といえるが、これほど多くの蔵が残っている地域も珍しい。蔵があることが住吉の固有性のひとつであり、表紙に描かれた水彩画や下の写真からもうかがえるが、蔵の佇まいがまちなみ景観に歴史と風格を与えている。そういうまちなみを再発見・再確認し、守り、育て、次世代に伝えたいと考えている。



蔵のあるまちなみ

執筆者一覧

- ・植松清志 大阪人間科学大学教授
- ・小出英詞 住吉大社権禰宜
- ・住吉蔵部（※）

ヒアリング協力

<蔵所有者に聞く>

- ・巽留宏 「蔵」のギャラリー CLASSIC
- ・伊藤慶明 伊藤家蔵

<蔵職人に聞く>

- ・岡本惣治 山惣商店
- ・渡邊純一 瓦寅工業株式会社

蔵実測ほか協力

- ・城田廣平 すみよし歴史案内人の会代表
- ・昇勇 昇設計室
- ・春岡須磨子 春設計室
- ・中島薫 ナカジマ建設株式会社
- ・竹山康子 竹山建築設計事務所
- ・林佩樺 遊墨設計
- ・牧野友紀子 ATELIER PICT
- ・辻岡隼斉 近畿大学学生
- ・岡田和之 近畿大学学生
- ・南範和 大阪産業大学学生
- ・西部和徳 大阪建設専門学校学生
- ・渡辺祐樹 大阪建設専門学校学生

表紙絵・挿絵（P21・P25） 須和昌昭 ～作者のひとこと～

住吉に住んでおり、「住吉の蔵」との出会いは古い。伝統的な美しい建物を散歩中に見かけ、どのくらいあるのか探してみようと思い、一人で楽しんでた。白い漆喰壁が、季節やその日のお天気により美しく化粧していて魅力を感じ、記録のために、簡単にスケッチをしながら歩いていたが、どんどんその素晴らしさに魅せられるようになった。もっと丁寧に描くか写真に残しておけばよかったと、後悔している。今は、そのスケッチをもとに、風景画として描きなおす日々を送っている。

表紙の絵は、大きなお屋敷でどの方向から描こうかと迷った。また蔵の横に電柱があり、絵の中では、少し移動させた。この日はとても暑い日で、汗との闘いで苦労したが、絵筆を持てることで至福を感じている。

（※）住吉蔵部 メンバー一覧

- | | | | |
|--------|--------|--------------|-------|
| 竹山通明 | 代表 | （有）竹山建築設計事務所 | 取締役所長 |
| 阪田晴宏 | 副代表 | 阪田設計工房 | 代表 |
| 仙入洋 | 事務局長 | 遊墨設計 | 代表 |
| 牧野高尚 | 副事務局長 | ATELIER PICT | 代表 |
| 材寄法子 | 会計 | 材寄建築設計室 | 代表 |
| 曾我部千鶴美 | 書記 | With 建築工房 | 代表 |
| 竹山温子 | デザイン担当 | 長屋ギャラリー | ふう 館長 |
| 赤崎弘平 | 顧問 | 元大阪市立大学大学院教授 | |